

人生は、愉しみから愉しみへの旅である

2012/2/15

日本倶楽部午餐会

阿部毅一郎

1. 私のホームページ

<< 阿部毅一郎のお愉しみコーナー>><<http://www.akybe.net>>

開設：1997/2/4、当初は、私の趣味の世界のみでスタートしたが、2005年1月20日から仕事関係に1コーナーを当てた。

アクセス数：宣伝はしていないが、現在まで約68,000のアクセス

冒頭に：「人生は、愉しみから愉しみへの旅である」私の基本コンセプト（人生は愉しく、仕事も愉しく、老後も愉しく）

内容は、私の愉しみを紹介：縦軸に日記（9歳から24歳）、横軸に数々の愉しみ

現在、私家版全集の趣、個人アーカイブス、自分史、『私自身の広告』にもなっている。

◇それでは正しい生き方とは何か？人生は遊びとして生きねばならない（プラトン）。

伊藤元重東大教授の講演から「産業革命は、人間を laborer から worker へ解放したが、IT 革命は、worker を player へ解放する」

（私のコメント 2001/1/24）「従来から人生を愉しみから愉しみへの旅としてとらえ、仕事も愉しくと趣味の延長線上で考えてきた私にとっては、ようやく、私向きの、願ってもない時代が到達しつつあるとの感を深めた。大歓迎だ。

確かに趣味を worker としてやるわけには行くまい。テニスやゴルフをやるのは play であるように、趣味、楽問の類をやるのも play でなければなるまい。わたしのこれまでの生き方は、player としての生き方だったのだ。」

◇私のホームページを見た作家の林望は「俳句、囲碁、エッセイ、スポーツ、水彩画まで、何でもござれの風流な紳士が、趣味で作っているホームページだ。「日本にもほんとうの意味での趣味人がいたんだなとうれしくなりましたね」「人生は愉しみへの旅である」とのコンセプトに従って、水彩画、エッセイ、俳句、ドライブ、童話などさまざまな「部屋」がとりそろえられています、どこも非常によくできている。作者はいかにも趣味人という感じがしますね。この方も私と同じで、ホームページが「私自身の広告」そのものになっています。本来、ホームページというのはこうあるべきだと思いますね」（日経ネットナビ 1997年10月号）

2. 私の愉しみの数々

ホームページ（＝HP）で紹介（30近くの部屋、HPは自分史、自分のこれまで書いてきたもの、描いてきたもの、やってきたことのアーカイブス＝文書貯蔵庫、私家版全集の趣き、何でも愉しみにしてしまう）

- ・スポーツをすること（テニス、ゴルフ、スキー、サイクリング）

- ・ゲームをすること（囲碁）
- ・描くこと（水彩画、スケッチ、俳画）
- ・書くこと（エッセイ、日本文化論、日本的経営論、論文、評論、紀行記、童話、推理小説、短編小説、歌詞、詩、日記、執筆のため 1982 年 120 万円のワープロ購入）
- ・詠むこと（短歌、俳句）
- ・ひねること（川柳、言葉遊び）
- ・撮ること（カメラ、ビデオ：HD のビデオカメラ所有、自転車専用のも）
- ・読むこと（読書、引用句・語録）
- ・観ること聴くこと（音楽、観劇、映画、ホームシアター、iPod、iPad を所有）
- ・旅すること（旅行、ドライブ：プジョー、パジェロ、現在は Subaru Forest ターボ付き所有）
- ・いじること（パソコン、インターネット、ホームページの運用、ホームシアター）
- ・料理を作ること（圧力鍋活用）・おいしいものを食べること（何でも食ってやろう派：eg. リヨンの子羊の睾丸料理、インドネシアの鳩の頭の唐揚げ etc.）・おいしい酒・お茶を飲むこと（中国茶はじめ各種取りそろえている）
- ・人と会うこと・インターネットで繋がること（同窓会、同期会、クラス会、人生の愉しみを語る会、趣味の会、e-Mail、Facebook、Twitter）
- ・集めること（広州博物館博古木櫃及民間工芸品（旅行初日 129 万円即決）・銀スプーン・ミニボトル・鳥の置物コレクション・CD・書籍）
- ・自然と接触すること(スキー、山野・溪谷歩き、庭に餌台 2 台)
- ・絵はがきを配るたのしみ（『時評』表紙絵になった水彩画の絵はがき 7 種類を焼き増し、プリントアウトし配った（外国でも））

3. 有段者といえる愉しみ・趣味のリスト（下手の横好きが多いがそればかりではない）。

私の囲碁（プロに 2～3 子で打つ、→有段者と言える。囲碁のレベル・基準で計って見て有段（棋譜が取れ、後で並べ直せるのが一応有段者の基準）と言えると思うもの）

- ・テニス（H 会（1964 年～、ダブルス優勝 7 回、最高殊勲賞受賞（最多勝利賞）11 回、昨年も殊勲賞受賞）
- ・ゴルフ（第 102 回 O 会（123 人参加）で優勝、シニア賞（満 60 歳以上の優勝）、昨年ダイヤモンド賞（満 70 歳以上での優勝）、S 工業会常務会コンペで生涯ベストの 79 で優勝）

・スキー（1989年札幌手稲のオリンピックコースで習う。2002年フランスへ遠征、ゲレンデ総延長600キロのオリンピックコースを含むコースで滑る。連続16年スキー場で迎春）

・水彩画（月刊雑誌「時評」の表紙絵7回採用、日本倶楽部会員作品展に連続15年出品）

・ビデオ撮影（白黒8ミリ時代から、昨年NHK 特ダネ投稿DO画「ワニのジャンプ」（2011/1/23 放映））

・エッセイ（人生の愉しみに関するエッセイ、月刊「時評」に丸5年連載1990/2~1994/12、日本文化に関するエッセイ「気まぐれニッポン探検」（1986/8/20~1987/7/20）「日本を考える」（1985/4~1986/3）、一年間連載2回月刊政府刊行物新聞）

・論文（東洋経済社賞受賞1980年創刊85年記念論文「日本式経営の総点検」、時評賞受賞1989年（秋光翔名義「強気論と日本の自己主張」、その他週刊東洋経済、月刊時評「海外子女の日本語教育」「歴史に学ぶ教育改革」など）

・評論（月刊雑誌「財政詳報」に70回ほど執筆）

・著書（商業出版、3冊：「文化としての日本的経営」（中央経済社。1990年秋光翔名義1987/7~1989/7月刊時評に20回連載したものを取りまとめたもの）「日本的システムの総点検」（通産調査会、1984年、秋光翔名義）「どう変わる国際経済と日本」（通産調査会、1983年、編著））

・童話（「チビクロの冒険」2002年出版、（株）かんぼう）

・電子書籍（AKYBE EBOOKS（ISBN 出版社記号：9905630）から2011年出版：紀行「イギリスを走ろう」、エッセイ「単身赴任者の愉しみ」エッセイ「日々の愉しみ」童話「チビクロの冒険」）

・推理小説（「オール読物」「小説サンデー毎日」推理小説新人賞最終候補に「遺書は風に散った」1971年、「情事のたしなみ」1972年で2回）

・短編小説（「小説現代」講談社小説現代新人賞選考三次審査を「山羊男」1972年5月で突破）

・歌詞（東大第一応援歌「闘魂は」1960年、同人誌で「燃えつきた恋」で作曲家 遠藤実 賞受賞1974年12月、カラオケ用替え歌）

・俳句（1995/4句作開始、NHKBS俳句スペシャルで時実新子選「よそ行きの 顔で猫行く 菊の径」2004年？放映）

・短歌（NHKBS「短歌スペシャル」岡井隆選「あの男も ひどく変わったと 思うけど 我也変わって 交友続く」2005年4月23日放映、「即興歌日記」「私の独楽吟」

・川柳（川柳専門雑誌『夢迷人のいまどき川柳毒本』1997/8/20で金賞受賞、「出る杭に なるまいとして悔いが出る」「わかり合う はずの対話で 渡り合う」「たまには歌句会」（@

nifty のフォーラム：1995/4~2003/12) で川柳部門最多トップ賞、ラジオ放送 TBS Bs-1(2001/6/4)、今年の正月もホテルの川柳大会で最優秀賞 2 回→ペア宿泊券 2 枚獲得)

- ・回廊型川柳 (創案 2009/4/11~: 「老いの影 見せまいとする 老いの影」「探してる ものを忘れて 探してる」「何となく 手に触れキスも 何となく」「力む癖 見せまいとして 力む癖」(A タイプ)「勇敢に 戦いし人 夕刊に」「(B タイプ)「笑ってる 場合でないのに 笑ってる」(万能型中七) など

- ・言葉遊び：48 音詠い込みイロハ歌、など

- ・ドライブ旅行 (ヨーロッパをポーランド時代 6600 k m (1976 年ワルシャワ→ローマ)、5300km (ワルシャワ→マルセイユ 1977 年) など、退官後：イギリス 2500 キロ(ヒースロー→スカイ島→エディンバラ 1993 年)、 スペイン (バルセロナ) →ポルトガル (リスボン) 2000 キロ (1994 年)、イギリス南部 (ヒースロー→トーキー1500 キロ (1995 年) 走る)

- ・会合設営 (人生の楽しみを語る月一飲み会 (主宰。1990 年 5 月~) 大学クラスメートの昼食会 (月一回、一人幹事で 212 回開催 1994 年~)

- ・インターネット (メール、ホームページ運営、Facebook, Twitter の常連でフォロワーも)

- ・パソコン (ワープロ専用機、ポケット・コンピューターの時代から、BASIC でプログラムも組んだ、書斎には 4 台おいて仕事)

- ・読書 (蔵書約 1 万冊「未来の図書館」「理想我」：マンション 53 平米を書庫に当てる←森本哲郎「書物巡礼記」1986 年：本とは読むものではなく、いつか読もうと思っているものだ。そのいつかは、それこそ、いつなんどき訪れるかわからない。そのとき手もとに本がなければ、彼は永久に本を読むきっかけを失ってしまうだろう。自分の書棚に並んでいる本は、そのときのためのものである。すなわち、未来の書物なのだ。だからこそ、そこに並ぶ本は多いほどいいのである。...私は読書とは、何よりもまず本をさがすこと、さがして買ってくる、買ってきて本棚に飾ることだと確信している。実際に本を読むのはいつかでいいのだ。書斎とはこの意味で「未来の図書館」というべきであろう。)

- ・引用句・語録：「私の好きな言葉」ほか読書などで採集した言葉を収録

- ・音楽：(iPod に 5,000 曲、定期演奏会、幼いときからベートーヴェンを尊敬、「第九」シラー「歓喜の歌」→東大応援歌「闘魂は」へ繋がる。バイオリンニスト「ギドン・クレーメル」ピアニスト：1975 年ショパン・コンクール、優勝者ツィメルマンと 2009/6/10 偶然握手、ジャズ「キース・ジャレット」ニューオーリンズ、シカゴ (ブルース) 読書「小澤征爾さんと音楽について話をする」村上春樹、「楽団長は短気ですが、何か？」金山茂人)

- ・観劇：(中学時代「夕鶴」の与ひょう役、ポーランドでも観劇、バレエ、オペラも好き。毎年必ず観劇：俳優山本亘の出演作、浅敷童子など

4. 「多趣味は身を助く」のエピソードの紹介

テニス

どこにでもラケット持参、赴任地（ワルシャワ、高松、札幌）ではすぐ仲間が出来た。

ポーランド時代（1975～1978）加入していたブリティッシュ・クラブでシングルのチャンピオン、決勝戦では2セットとも、1-4から逆転、7-5, 7-5でインド、シーク族の頭にターバンを巻いた巨漢シンさんに辛勝。「これがどんなに凄い試合かわかるか」と、観戦中のイギリス外交官夫人がわたしの妻に語ったと、四半世紀も後に妻から聞いて知った。

ブリティッシュ・クラブの主将として、外交官クラブとの対抗戦に出場。
週末は、対戦申し込みが各国の外交官から。

アメリカ大使（気骨のある人）とよく早朝テニス（冬、雪をかいて、プラットフォームテニス）

→きちんとした趣味を持っていれば、語学が多少出来なくても、一角のものとして評価され、招待され、仲間も増える。

テニスH会で、年間10回ほどの対外チームとの対抗戦はほぼ50年近く続いている。年一回会う人でも親しくなる。今年もマスターズ戦（2月5日）。METIの先輩同僚後輩とその幅70年に及ぶ人との交流。

囲碁

ポーランドで普及に乗り出す（囲碁入門書を持参、碁盤、碁石を提供し、週一回碁会を開催）
ワルシャワで航空機の乗り継ぎに遅れた加納九段（通産省で囲碁指導で旧知）との再会し、
囲碁使節団のポーランド派遣のきっかけを作った。

教え子から、ヨーロッパチャンピオン（ポーランドの参加に助力したアマチュア世界囲碁選手権でも青い眼でトップの7位に入賞）

日本ポーランドの友好関係の増進（趣味に淫するなど大使から言われたが）

団長の石井邦生九段の弟子が井山裕太天元、十段（「わが天才棋士・井山裕太」）

俳優山本亘（団員：小川誠子六段の義弟）と知り合い、現在も交友続く

言葉遊び

人生のモットー「焦らず 勉強 気長に 生きて 血の沸く ロマンの 詩（ウタ）も忘れず」（あべきいちろう、折り込み）

◆折り句、

「北海の輝く波路行く船の堂々として美しきかな」（北海道）

空知地区リゾート開発国際コンペ表彰式

「夢語る宴ぞ今日はバラ色のリゾート目指し祝杯挙げん」（夕張市）

木村尚三郎東大教授（故人）から評価

出身地島原（島原新聞でも紹介「清水湧き真鯉は泳ぎバラ香る楽土さながら島原の町」「芯強く真心厚くバラの肌来世までも島原の女」（島原市）

◆48 字詠い込みイロハ歌「**遍路を行（ゆ）けば霧立ちて我さすらいの身ぞ悲し骨置く山背ついに越え会えぬ人呼ぶ目も潤む**」

◆甥姪の結婚披露宴でお名前拝借祝い歌を披露（恒例化）

中身濃い 大和撫子 魅力的 どこから 見ても 理想の新婦（新婦：中山みどり）
見るからに 頼りがいある 憎い人 博之さんと 行きます私（新郎：三谷博之）・

◆上五島関係の会社（2002 年 12 月 9 日に転職）でも、かみごとうを折り込み、
「神ならぬ身に計り得ぬご縁なり共に寿ぎ旨酒重ねん、交わさん」（歓送迎会）
「海上に見るも巨大な五船あり時に備えて浮かべし城ぞ」（事業所での、職員への新任挨拶）

◆たまには歌句会（@nifty でも駄洒落川柳の「大家」として認知されていた 1995/5~2003/12 終結。eg「出る杭になるまいとして悔いが出る」）

歌詞

東大第一応援歌「**闘魂は**」（1960 年 8 月 20 歳の時の作詞）

日経新聞消息欄（2001.10.14）に紹介、それが機縁で、作曲者と 41 年振りの初対面

ノンフィクション作家：最相葉月「東京大学応援部物語」（大変重要な攻撃場面で歌われる『闘魂は』は大変激しく祈りにも似た歌でした（作者からのメール）。）の取り持つ縁で、作者、作曲者とも神宮球場で東大野球部を応援。雑誌「東京人」に「40 年振りの応援歌」

日記

46 年前の日記が取り持つ縁、インターネットの超能力。

映画「文無し横丁の人々」（監督キャロル・リード）16 歳のときの日記に感想あり。

佃公彦（漫画家「ほのぼの君」東京新聞に長期連載）と一タ、会食

5. 多くの愉しみを持つに至ったのは

（1）「30 年後 40 年後の自分（＝子孫）に美田を残さず、人生を多様に愉しめる趣味を残そう」高校時代から意識、20 代日記に明記している。この道一筋を尊び、多芸は無芸という文化風土への挑戦、自分の可能性を限界まで確かめたい。

（この道一筋：諏訪正行（映画監督：Shall We Dance? アメリカに行く）

日本では色々なことをやると批判される傾向があり、最近は変わってきましたがこの道一筋というのが王道...）

（多芸への評価：柘植元一「世界音楽への招待」「音楽に限らず何事においても専門性を高く評価し、多芸・万能をむしろ低く評価しがちな日本人には...」

（2）「五段はイロハ」ポーランドで囲碁普及活動。日本から囲碁使節団。春山勇九段の言。アマのトップクラスは。才能より時間の関数（家内のケース：テニス、スキー、囲碁）

（3）睡眠 2 時間の激務で鬱病に。過労死寸前まで行った経験あり。その回復課程で果たした「愉しみ」の効用。薄紙をはがすように回復した。最後に頼りになるのは組織ではなく、自分だけ。

また、この経験から論文「日本式経営の総点検」→著書「文化としての日本的経営」に結実

(4) 巨人の労苦：(1962年2月27日の日記から)

◇ヴィノグラドフ(1854ー1925：ロシアの法制史学者)の評伝から引用。「出版された著作物は大小とりまぜて266点、それは悉く、長い間毎日12時間ずつ勉強したという努力家、フィッシャーのいう「巨人の労苦」Cyclopean toilをもって一生を貫いた学徒の苦心の結晶だった。これが、私の基層低音として鳴り続けた。努力だけして結果を出さなければ意味がない。結果としての私の趣味・愉しみがある。真に生きた証拠。

6. 趣味人の生き方を選んだわけ

わたしのHPを見て作家林望のコメント「日本にも本当の意味での趣味人がいたんだなとうれしくなりましたね」→自分のこれまでの生き方を評価して貰えたようで嬉しい。

日本は、仕事優先社会、私生活は従。

趣味すらも仕事に尽くす観点から選ばれる面あり。

職場公認の趣味が幅を利かす社会：eg.マージャン、囲碁、ゴルフ、飲酒(縄のれんも仕事のうち、ノコミュニケーション)、カラオケなど、付き合い趣味が多い。

この種の趣味ができないと、むしろ仕事が出来ない、付き合いが悪いということにされかねない。

職場公認でない趣味をやっていると：それでよく仕事ができますね、とすぐ言われた。趣味に淫する、とも。肩身の狭い思いをさせられる。

人間は本来、好奇心旺盛で、多様性のある生き物。

外国では、仕事と趣味(私生活＝自由時間)を両立させる生き方が普通(長期休暇も取れる)。

日本はあまりにも、仕事(組織)優先になりすぎている(長期休暇が取れない。誰も取れるようにしようとしな。→長期休暇を必要としな。仕事の合間を縫ってなんとかやりくりして自由時間を確保せざるを得ない)。

日本的生き方へのアンチテーゼとしての、趣味人の生き方を選択。生きにくいが、敢えて選択。自分なりに生き方の理想を求める(レオナルド・ダ・ビンチ的生き方に憧れ)。HPはそのデモンストレーションの場。

好きな言葉「自足の最大の収穫は自由である。」エピキュロス
自分の自由時間の確保。

人生観

戦後、「良い学校、良い成績、良い企業、良い肩書き」＝幸福という単純化された価値観、人生観の蔓延(『文化としての日本的経営』で分析)。

自分の生き方を貫く。そのため多少、いわゆる出世しなくとも、構わない覚悟(肩書きより人生の質を重視)。悔やみのない人生を送りたい(出世だけに人生を賭けると大抵の人は悔やむことになる)人生80年時代(90年時代とも)、職場は50年、趣味は一生。

・昨年 6 月末で公職から離れ、現在、自由人、趣味人として充実した生活を送っている。これは過去の自分からの贈り物である。今それに感謝しつつ生きている。未来の私や次世代に継承しようとして HP も開設している。

7. 多趣味を身につけ、維持するには

どれも自分が好きなことで、やること自体が楽しいから苦にならない。（自分が楽しいことを見つけ、あせらず取り組み、取り組みだしたら、少々成果が出なくても、諦めず続ける）

いつもやることがいっぱいあって、嬉し悲鳴

多様な楽しみ方が身に付き、他の趣味を身につけるときの、応用が利く（多趣味による相乗効果、進歩に一直線はあり得ない、アップダウンがつきもの、不可逆点をとにかく突破するまで頑張る（時間利用の効率化）

問題意識を持つこと（アンテナを張る）

時間のマネージメント（集中する、しかし、同じことばかりすると頭が疲れる、取り組む対象を切り替え頭脳の違う場所を使う）

旺盛な好奇心と想像力、創造力（健康の元）

勝ちきるには（ゲーム事には共通点あり（相乗効果）、テニス、ゴルフ、囲碁は、長期戦、自分から負けに行かない）

一日、少しでも関心を払う一日 15 分法（1 日 15 分＝一日の 1% でも、50 年間続けると丸半年、そのことに時間を割いたことに当たる）。

継続は力なり（五段はイロハ、アマのレベルでは、才能よりも継続、時間を割くことが優先）

8. 多趣味の効用

人生を多様に愉しめる。多様なほうが豊か（この路一筋で奥を極めるのも尊いが）。

世の中を色んな視点から見られる。

誰も持たないユニークな視点が出てきているはず（これだけ多様な趣味を持てば）

趣味を通して多彩な人と知り合える。

退屈しない。話題に事欠かない（スピーチを頼まれても）。

人を評価する基準が多様化する。色んな人を受け入れることが出来る。

◆多趣味を持ったことが結局、仕事にも役に立った。

必要な情報を集め、分析し、考え、編集して、知識化し、結果を出す（＝趣味として身につける）。これが、マネージメントであり、仕事でも趣味でも変わらない。たくさんあってもレベルを落とさず、やり抜く。

71 歳半まで 4 つのポスト（2011 年 6 月末まで、自転車関係の財団の会長、会長、理事長、株式会社の代表取締役社長。それぞれ業務内容は異なるが、趣味の知識・身につけ方が大いに役に立った。もっともリストラで一カ所分の給与だけでも働く人と見られたのかも知れないが…最後の 7 年間、自由人・趣味人的フィーリングにびたりの自転車の普及という仕事で、大いに愉しく仕事できた。セレンディピティ。引き寄せの法則を感じた）

年賀状

毎年年賀状に前年の嬉しい思い出を近況報告として出している（2003年以來。今年（2012年）の年賀状にも、書ききれずにずいぶん削った（*印）。愉しみにしてくれる人が増えたスキー；1月15年連続スキー場で迎春、2月、3月も滑る

ビデオ：1月、NHK特ダネ投稿DO画「ワニのジャンプ」全国放映

水彩画：3月：日本倶楽部会員作品展に3点15年連続出展、10月：月刊誌時評10月号表紙絵に「クロスカントリー」

東大寺修二会拝観：3月12日（奈良県知事基調報告の「バイコロジーシンポジウム」に駆けつけ、その夜）

音楽会：3月：ズービン・メータ指揮「第九」バレエ「カルミナ・ブラーナ」7月「コーラス・ライン」ほか

*電子書籍出版：4月、4冊「イギリスを走ろう」「チビクロの冒険」ほか

自転車に関するインタビュー記事掲載：①*「パーキングプレス5月号「震災復興に向けて自転車が必要」②時評10月号「自転車国家戦略の早期構築を」（退任後のもの）

仕事：6月末で、4つ兼務した自転車関係のトップを退任、自由人へ

サイクリング：7月折りたたみ自転車bd-1購入、年内に1000km走破

料理：10月活力鍋を購入し、料理を始める

ゴルフ：10月、大平会(第122回)ダイヤモンド賞（満70歳以上での優勝）

*テニス：12月白球会：対外5戦皆勤。殊勲賞

私の独楽吟：年末：3700首突破

9. 「私の独楽吟」の紹介

橘曙覧（1812~1868、江戸末期の歌人：「独楽吟」52首「たのしみは 朝おきいでて 昨日（きのふ）まで 無かりし花の 咲ける見る時」（クリントン米大統領が昭和天皇をホワイトハウスに招いたときに紹介した短歌）に倣い「私の独楽吟」を2009年11月14日に詠み始め、現在4300首、一万首を目標（万葉集：4500首）。友知人に配信、ホームページ、Facebook、Twitterにもアップ。

Twitterでの自己紹介

「たのしみは 近代十種の 競技とも いうべき多趣味を 鍛え愛づるとき」

「たのしみは 年取るほどに 愉しみの 増える厭わず また増やすとき」

「たのしみは 歳を取れども 衰えぬ 好奇心持ち 意気上げるとき」

早乙女貢大衆文学研究賞（「司馬遼太郎とエロス」）を受賞した畏友碓井昭雄のコメント

「阿部毅一郎君の独楽吟3200首達成を頌す—————碓井昭雄敬白 2011/11/15」

我が同窓の友、阿部毅一郎君がこの度、目出度く独楽吟3200首達成の挙を遂げた。

彼は身近些事を詠む量産歌人を自認し、敢えて独創を求めず、類型を怖れない。

小生は以前、橘曙覧の例に倣って、自選精選して50首ないし100首吟を試みたら如何、と提案したことがあるが、今はこれを撤回する。

彼はゴルフをテニスをサイクリングを詠み、囲碁を読書を詩歌音楽を詠む。

俳句川柳童話小説、果ては映画演劇等、彼の手に成らないものはない。最近は料理にも凝っている。

料理そのものの味については保証しがたいが、その意欲たるや十分に瞠目に値する。
然も近作においては、例えば次の二首の如き、単なる量産歌人の域を脱し、ある深みの境涯にまで至らんとしている。

「たのしみは エッセイストは 試みる 人でもあれば 名刺に刷るとき
たのしみは 今の私が これからも 変わりうるから 未来があるとき」
阿部君の意気や盛ん。その益々の力業を祝して、小生からの頌歌一首を呈す。

「たのしみは 天の百星 地の百花 輝く君の 歌を見るとき」
(注) エッセイストを名乗っているが、私の HP を良く読んでくれた人が、退職後、エッセイストと名乗るように強く勧めてくれたこと、自分もこの呼称にあこがれを持っていたこと、どこに書かれている、エッセイストには、試みる人の意味もあるからだ。

10. 結び

3F3H が、人生は愉しみから愉しみへの旅の基盤

昨年 6 月末で全ての公職から身を退いた。家族がそれを祝して祝賀会を開いてくれた。そのとき、感謝のスピーチをやったが、私が「人生は愉しみから愉しみへの旅であると思って生きてこられたのも、3F3H のお陰であるとお礼を言った。各人から心のこもった言葉の書かれたカードを貰った。

3F : family, friends, finance

3H : health, hobbies, home ground

3F

family: 近所、良く会う、パーティ（持ち寄り料理）、一緒に食べに出かける（神楽坂など）

friends: 趣味で繋がっている人々：スポーツ（テニス（白球会 47 年年一でも親しくなる：マスターズ戦）、ゴルフ（大平会、SanParsGolf, 38/39 会など）、スキー、サイクリング）囲碁（三水会、小川会、淡路塾）、演劇（山本亘夫妻、ファンの一人はこだわらない会に参加）
：地縁、さとみ会（第二木曜日）高校、一小会、学縁：四季会（大学時代のクラスメート。私の一人幹事で 212 回）職場縁：商工春秋会、趣味縁（こだわらない会：私が主宰、月一人生の愉しみを語る会、平成 2 年から継続）
：インターネット：Facebook, Twitter, ML（インターネットで知り合った人がこだわらない会に 2 名参加）

finance: 暮らしに困らないだけの財力、余計には要らないが（71 歳半まで働くことができた）

3H

health: 過労死になるほどのオーバーワークを強いられ、死ぬ目にもあったが、なんとか回復し、とにかくこれまで健康で生きてこられた。

hobbies: 生き甲斐になる多くの愉しみがあつた。

Home ground: 自分の確固たる足場を持つ：人生観、世界観、自分の世界（阿部ワールド）自分らしい生き方を貫く。

アマ初段時より 7 段格の今がレベルの高い愉しみを愉しめる。レベル高く愉しむにはどうしても時間が必要、成熟円熟には時間の要素がある。従ってできるだけ早く始めたがよい。しかし、始めるに遅すぎることもない。グランマーモーゼス（農婦、80 歳近くで絵筆を持ち、100 歳で世界的な画家）

私の新しい愉しみ：サイクリング、料理に挑戦中、独楽吟を 1 万首まで詠む。

単眼ではなく複眼を持つこと

人類は多様性があってここまで発展、異質な人を受け容れる社会へ、異質との共生へ

先人、過去の自分からの贈り物に感謝し、後生に残す、伝える。（HP は日本でも私のような生き方ができたというデモンストレーション。）

◇焦らず勉強気長に生きて血の沸くロマンの詩（うた）も忘れず

◆楽問

小山慶太の「知的熟年ライフの作り方」（講談社現代新書 2000 年）[学問とは本来、強いられた 退屈な作業ではなく、知的好奇心をそそる面白い営みであり（純粋な意味で）大人の心躍る遊びであるからこそ、それにのめり込み、すぐれた業績を上げる人間 が大勢いたわけである。職業や実利性とは無縁の俗事を離れたところで、学問は 花開き、発展してきた事実を見落としてはならない。・・・科学の研究が職業として広く社会に定着したのは、やっと十九世紀に入ってからのことである。ということは、かつて学問は立身出世やパンを得る手段ではなく、アマチュアリズムに通じる趣味の対象、つまり楽問だったといえる。」（p. 20）](#)

◆たのしみは 卓話機会に これまでの 愉しみ人生 整理するとき

◆哲学者マルチン・ブーバー「人は創（はじ）めることを忘れない限り、いつまでも若い」

◆これからも、多趣味生活の充実を図り、人生をますます愉しんで行きたい。